



シルバーだより

道 標

第 6 号

H26.4.1

大分市長
——
新年度の事業開始によせて

2

特集

3

さようならベンツ

趣味の悦楽

4

新聞への投稿が楽しみ

人物ウオッチング

5

会員のみなさまのお手伝い
事務局の二人

お客様の声・働くなかま

6



青崎の浜にて

新年度の事業開始によせて



大分市長 釘宮 磐

公益社団法人大分市シルバー人材センターの平成二十六年年度事業の開始にあたり、ごあいさつを申し上げます。

会員の皆様につきましては、平素より、豊富な知識や技能・経験を活かした各種サービスの提供に取り組まれ、地域社会の活性化はもとより、市政各般にわたり、ご協力を賜っておりますことに、深く感謝申し上げます。

さて、ご案内のように、我が国は少子化が進むと同時に高齢化が進む「少子高齢化」社会の到来が叫ばれて久しく、一九七五年に二・〇〇を割り込んだ合計特殊出

生率は、一九九五年には一・五〇を下回り、二〇一二年では一・四一に減少する状況であり、「少子化」に歯止めがかかっておりません。また、総人口は二〇〇八年をピークに減少に転じ、二〇一〇年の一億二七〇〇万人から、二〇六〇年には八六〇〇万人となり、とりわけ十五歳から六十四歳のいわゆる労働人口は、二〇一〇年の八

一〇〇万人から四四〇〇万人へと世界でも類例のないスピードで大幅に減少すると見られています。一方で「高齢化」については、六十五歳以上の高齢者の比率が、二〇一〇年の二三・〇%から二〇六〇年には三十九・九%と大幅に高まっていくと推計されています。

人口の減少、とりわけ生産年齢人口の減少は、経済の縮小を招くひとつの要因であり、我が国の経済活力を維持し、持続的な発展を

可能とするためには、「労働力」の確保が不可欠になります。特に、長年培った技術と経験をもつ高齢者の労働参加は大変重要です。今後は、より多くの高齢者が、活き活きと働き続けられるような、環境整備や工夫をさらにすすめることが、行政に求められる大きな課題です。

このような状況の中、働く意欲と能力を持った高齢者の「働き方の選択肢」のひとつとして、求人ニーズを上手くマッチングさせ、地域に根ざした幅広い事業展開をし、高齢者の社会参加と就業機会確保に努めておられる、大分市シルバー人材センターの役割は、今後さらに重要になってくるものと期待をいたしております。

また、会員の皆様におかれましては、引き続きシルバー人材センターの基本理念である「自主・自立・共働・共助」の精神に基づき、就労の機会を通じて自分らしく、いつまでも元気に地域社会でこ活

躍され、ご自身の生き甲斐づくりと人生の充実を図られることを祈念いたします。

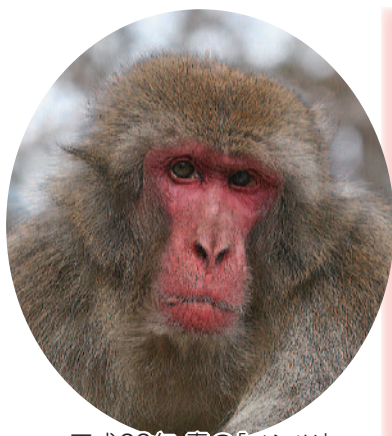
本市としましては、かねてから会員皆様からご要望のありました、「事務所移転」につきまして、平成二十七年の早い時期に移転ができるよう、現在事務局の方と慎重に協議を重ねながら、よりよい新事務所となるよう準備を進めております。

今後とも、就労意欲に溢れる高齢者が、自らの経験と能力を発揮し、地域社会で活躍できるよう支援するとともに、すべての高齢者が健康で活き活きとした生活を送れるよう、各種施策・事業の推進に積極的に取り組んでまいりますので、皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

おわりに、公益社団法人大分市シルバー人材センターの益々のご発展と、皆様の益々のご健勝、ご活躍を心から祈念いたしまして、挨拶いたします。

さようならベンツ・・・

高崎山の歴史はあなたなしでは語れない



平成23年 春の「ベンツ」

ボス就任の最年少記録、女性問題で失脚、二つの群のボス就任、二度の失踪、何度も復活する不屈の精神など全国に話題をふりまいた伝説の主、高崎山自然動物園のオスザル、C群αオスベンツ（三十五歳）がその波瀾万丈の人生（猿生？）の幕を閉じた。

去年の十二月十六日、二度目の失踪後、職員の四度にわたる大捜査にもベンツはその尻尾を立てて優位を示して歩く姿を見せる事は遂になかった。

彼は一九七八年誕生。五年後ベンツと命名され、一九八七年九歳でB群九代目ボスに。十一歳の時、C群メス頭との恋で失脚。群を追われC群の最下位で屈辱の日々を過ごす。しかし十数キロと云うず

ば抜けた体格と勇猛果敢な行動で徐々に順位を上げて行く。餌場でのA群との小ぜり合いに、C群の先頭でリーダーシップを取ったのはナンバー2のベンツだった。

彼一頭でA群八〇〇頭を山へ追

い上げたエピソードは有名。

二〇一一年、

人間で云えば

九十歳半ばと

云う高齢でC

群九代目αオ

スに就任。

昨年九月の

一回目の失踪

さわぎに続い

て、三ヶ月後

の二回目の失

踪は、再び姿

を表わし新た

な伝説をつ

くつてくれる

のでは——と云

うかすかな期

待も叶わぬも

のになった。

園では二つの群でボスの座につ

いた唯一のサルとして高崎山の歴

史に名を残したベンツを悼み「高

崎山名譽ボス」の称号が与えられ

た。また「不世出」の称賛を受け、

語り継がれる伝説の主ベンツの

「お別れの会」には全国から多く

の人がその別れを惜しんだ。



冬の風物詩 サルだんご



A群のサルを威嚇するベンツ（右上）

ベンツの遺志を継いで

C群「ユリーダー」「ゾロメ」

その温厚な性格と厚い友情で常にベンツを支えて来た、ナンバー2のゾロメがC群十代目αオスに就任、かつてベンツの特等席だった「切り株」を引き継いだ。人間で云うなら八十歳後半の二十七歳。母チヨミは婦人会幹部、兄ゾロは八代目αオスで、ボス在任最長記録の持主。新ボスはメスザルや子ザルに慕われる優しい性格で、右目の上のイボ、少々猫背が特徴。



ボス席の切株で「ゾロメ」

※写真や数々のエピソードなど、高崎山自然動物園の職員の皆様、ご協力ありがとうございました。

高崎山にはシルバー人材センタ―から駐車場、サル追い等数名の方が就業しています。

高崎山が阿蘇国立公園に編入され「高崎山自然動物園」として開園したのが昭和二十八年九月で、十一月には野生のサル達が天然記念物に指定され観光名所として全国の注目を集めた。

標高六二八・四m、海に面した山の斜面には、クスノキ等常緑樹とヤマザクラなどの落葉樹が密生し、ここに野生のサルが休息。山の周辺の農作物を荒す野生のサルを餌づけて、観光資源に利用出来ないものかと考えたのが当時の大分市長上田保氏。苦労の末、姿を表した二〇〇匹の群の先頭に立ったのが初代ボスのジュビターであった。

当時「ホラ貝」を吹きサルを集める市長の写真はマスコミをにぎわし、この市長をモデルにした、火野葦平さんの「ただいま零匹」は映画化され、二躍、観光名所としての高崎山がクローズアップされた。

人間と野生のサルとの共存、更に市の財政を潤す——と云う型が全国自治体が観光行政に力を入れる先駆けともなった。今年の三月十五日で開園六十一周年を迎えた。

（大分合同新聞社刊
上田保物語「ロマンを追って」
出典）



ホラ貝で餌付けをする市長

趣味の悦楽

新聞への「絵手紙」投稿が楽しみ

藤崎 芳久(桃園B班)

絵画教室講師「阿部なるみ」先生
作品の私の似顔絵です

物と、題材は無限にある。

暇を見ては絵筆をとり、幾度か妻に送ったのが「絵手紙」を描くきっかけである。正に絵は口ほどにものを言うであつた。

私の趣味は「書道」と「絵手紙」である。

当時を振り返ると、永い現役最後のご奉公が初めての単身赴任であつた。妻の有難さを身にしみて痛感するも、会話は、電話での一方通行の近況報告に終えていた。

留守を守り、体を心

配する妻への感謝と、互いが元気であるホッとするような安堵感と、心癒すものはないものか・・・道に咲く草花や四季折々の風景・テーブルにある果



の構図を描く励みになっていた。

折しも、大分市シルバー人材センターの絵画教室に入会し、冒頭私の似顔絵を描いて戴いた阿部なるみ先生に師事し、本格的に勉強を始める。

数か月後には教室生の描く「絵手紙」をはじめ風景画・静物画など、各、自信作をコンパルホールで初の作品展。続く第二回作品展とも、大好評であつた。

残念ながら、その「絵画教室」は、今は無い。が、多くの教室生は、今なお、個々人で楽しんで励んでいる。

大分合同新聞社では、春から冬の四季と、新年の年賀状の五回に亘り、「絵手紙」の紙上作品展を募集している。

私も、勉強のためにと幾度か応募してきたが、掲載の採用作品の難しさを知った。

それでも、今度こそは・・・今回は自信ある作品を出した

のと・・・応募した後の夕刊を広げる楽しみは、なんとも言い表し難い。ところが、一昨年の夏から昨年の春まで、連続して四回も入選の快挙となつた。

特に、一昨年の秋に応募した作品「さんまとカボス」は高い評価を戴いた上、年間賞としても採用され、思わず「バンザイ！」と声をあげた。

当作品は、今は手元に無く、投稿出来ないのが残念ですが、大きな自信となり、一層の向学心への励みとなったことは、言うまでもありません。

皆様も「絵手紙」で楽しい仲間づくりをしませんか。





業務班
福祉・家事援助
サービス担当
主任 佐藤 友紀さん



業務班
福祉・家事援助
サービス担当
主任 廣田 奈緒美さん

人物・ウオッチング

会員のみなさまの 「居場所」と「出番」 づくりに がんばってます。

去年の暮、福祉・家事援助サービス部会の担当職員お二人の名前で会員へ一枚の文書が届いた。読み進むうち、高齢化社会へ向けて、家事援助サービス作業の需要は増えて行くばかり、その中で、仕事上の色々なトラブルの多発など、この仕事の抱えている問題点が見えかくれ。

当然、日々難問と格闘している担当職員さんの苦労はいかがかと――。

今回は、少しばかり視点を変えて福祉・家事

援助サービス部会の窓口であるお二人の担当職員さんに登場して頂き、仕事のこ
とやプライ
ベートなこと
までマルマル
ウオッチング
しちゃいまし
た。事務局で
はのぞけない
プロフィール
も。

静と動

いきなり「趣味は」とお聞きしてみた。就任三年目の廣田さんは温和人柄同様に優しい声で「陶芸二年・ビーズ手芸かな！」

片や佐藤さん「エグザイルが好き、特にアキラが。それからゴルフの打ちっぱなし、でもコースは未体験。もう一つ、長唄三味線（カブキ等で幕内で弾き語りをする）の吉村流の名取り」と多彩である。

まさに「静」と「動」いいコンビネーションです。ついでに「休日」はお二人とも各々二人の子どもの中心でつぶれてしまうそうです。ちゃんと母親をやっているお二人に親近感を覚ええました。

一番困っていること

受けた仕事をドタキャンしないです！ これはお二人、同時の返答でした。

「受けた仕事には責任を持つて。どうしてもがまん出来ない時は早めに相談してください」ドタキャンされると双方のダメージが大きい事を考えてくださいます。

「仕事に誇りを持つとう。シル

バー人材センターの看板を背負っていることを忘れずに、ルールを守って仕事をしよう」去年の福祉・家事援助サービス部会総会での会長挨拶を思い出しました。

最後に二人から

「困った事が起こったら一人で抱え込まずにまず私達に相談してほしい。しっかりサポートします。『心』の問題はお互いの自覚に頼るしかなく、だからこそ話し合うこと、聞くことが大切です。

例えば、そんな事の為に「地区集会」もあります。悩める人程出席して欲しい。『地区集会』は情報が一杯です。

部会と会員の成長の為に腰を上げてほしい」

締めはやっぱり「仕事」の話になりました。お二人さん「居場所」

と「出番」づくりよろしくお願ひします。



メンテナンス講習会（平成26年1月）



16台のトラックがスタンバイ!



夜中に届いた商品が大きな倉庫にいっぱい!

「以前自分たちでしていた仕事をシルバーさんに依頼しています。朝六時から八時は、生鮮食料品

を伺いました。
シルバー会員の業務内容は
一人は万人のために、万人は一人のために・平和とより良い生活のために」を理念に掲げ、食の安全を求める運動等の活動を始め、六十年になるコープおおいた様。この宅配事業本部で現在十二人のシルバー会員さんが就労しています。センター長の股尾様にお話を伺いました。



生活協同組合
コープ大分宅配事業本部
二目川センター長

股尾 弘一様

職場のみな様と一緒に!

お客様の声



を中心とする日常生活必需品を入れた箱をトラックに積込む作業を夕方五時から七時は、配達から返ってきた空箱の片づけ作業をお願いしています」

丁寧かつ、スピーディな作業を

「組合員さんの大切な商品なので、積み込み時の取り扱いには十分気を付けてもらっています。商品の箱が倒れないよう、間違いないよう順番通りに積む。夕方の空箱の片づけでは、風の強い日など箱が飛ぶこともあります。重いもの、軽いもの、朝夕どちらも体力のある大変な仕事です。シルバー会員さんはとても頑張ってくれずいぶん助かっています。以前、外の木を切ってもらったなど依頼したことがあります。センター長が、今後何かあればお願いしたいと思っています」



重い商品をすごいスピードで詰め込みます



配達から返ってきた空箱の片づけです

地域生活に密着した活気ある仕事場、ここでもシルバー会員の力が発揮されていました。どうもありがとうございました。



スウェーデンハウス
パークプレイス大分公園通り
宿泊体験館にて

田口 富子さん
(明治A班)

実際に暮らすために建てられた住宅「宿泊体験館」。ここで宿泊を体験されたお客様が帰ったあとの、ベットメイキングと室内のお掃除をしている田口さんにお話を聞きました。

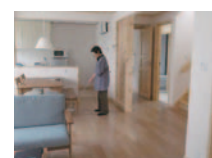
「この仕事をはじめて三年になります。主に土・日・月の午前中、二時間の仕事です。次にお泊りになるお客様が気持ちよく使えるように、例えば、シーツのしわやよじれがないように、床やお風呂・トイレなど傷がつかないように丁寧に新築したての自分の家」と思いながらお掃除しています」

思いを馳せて

「ここは若い人が住むのだろうな? この家で子どもを育てていくの

かな? 木の家なのでぬくもりがあるし、床はフラットなのでお年寄りも住みやすいだろうな? と想像することも楽しみの一つです。

目標は



「働くことイコール健康! そのためにも仕事はできるだけ長く続けたいです」

田口さんにとって働くことは、まさに人生そのものです。

仕事の合間に四国八十八ヶ所お遍路へも行かれ、今まで十二廻りしたとのこと。車の後ろにはお大師様のステッカー「同行二人」が目を引きます。



ヨイショ!
20キロの芝も何のその!



元気に育てと...



「大銀ドーム芝貼り」のお仕事にも行っています!

ここでは31人の仲間と一緒に仕事をしました。「シルバー会員さんの仕事はとても丁寧です」と嬉しい褒め言葉をいただきました。

就業体験

校舎の見回りと戸締まり

衛藤 勝行(判田東班)

「大分南高校の見回り戸締り」を紹介していただいた。「朝一時間、夕方三時間、計四時間。時給は安いが簡単な業務」と聞いてお受けしたが実際はハードな業務。

三階管理棟と四階教室棟が四棟、これらをつなぐ渡り廊下とを限なく見て回り、各教室、会議室、廊下、トイレの異常の有無、全ての窓の閉め忘れやロック忘れのチェック、施錠。部活や学習で生徒が残っている所は下校後再度見回る。一通り見回るのに九十分は歩く。汗だくのクタクタだ。交代予定者の実務体験時点での辞退が相次ぎ、六月から八月の猛暑の期間を一人で乗り切り、六時起床二十二時就寝のリズムも身についた。学習や部活、生徒会活動等に真剣に取組む生徒達の姿に愛着も

湧いてきた。

九月になって交代者が出来て一週間交代になったが、我々にしかできない業務という自負を持って励まし合いながら、冬場の寒さにも打ち勝って行こうと思う。

草取り稼業に生きがいみつけた！

中城 正士(寒田A班)

四十二年間のサラリーマン生活が終わり、平成二十四年四月から待望の毎日が日曜日に・・・二ヶ月で日々の充実感がなくなり、同年六月シルバー人材センターに入会しました。

得意の草刈り(講習必須)はタイミングが合わなかったため、野菜梱包パートに勤務し、慣れない仕事で疲労が重なり半年で辞めて、年明け早々センター事務局に仕事探しに行きました。

お陰様で、平成二十五年四月から自動車洗車週一回と、事務局だよりの草取り作業に応募して、五月から三十軒余の草取りに従事することができました。

草取りは、所謂三Kかもしれないが、一人親方の気楽さ・作業終了後の爽快感・発注者の有難うの笑顔に充実感があります。家内からも「天職やなあ！」と言われている。収入全てを丸々小遣いに使われる楽しみもいいもんです。

新年も、健康と小遣いと日本一きれいなまちづくりのため、「誠実・丁寧・迅速」をモットーに、草取り稼業に精を出したいと思っています。

私とプール管理

田上 幸也(敷戸A班)

勤めた会社を六十八歳で退職し、家でブラブラしていた時知人のすすめでシルバー人材センターの存在を知り、早速申込み会員となる。若い時から字を書く事には多少の自信があり、担当の係の方に伝え筆耕業務関係の仕事を希望する。書道教室への参加をすすめられ指導を受ける。

会社関係の宛名書の仕事もすす

められかなりの成果をあげ、私なりに満足する。何年か経ち大分大学のプール管理業務を担当の方より家も近く通勤などの便利、肉体的にも軽度な事等を加味しすすめられ迷わず承諾する。

二人で交替制で勤務、早いもので何ら問題もなく十年経過する。三年前相手方の人が急逝するとう思いもかけないアクシデントがあり一年ばかり一人で業務をこなしていたが、去年頃から若い方が来られ、現在はスムーズに流れている。担当の先生も五人目となりそれぞれ順調に業務をこなしている。昼休みに利用される先生方とのコミュニケーションを取りシルバー会員としての自覚を重じ、先ず仕事柄安全第一、先生方生徒達とのつながりを大切にしたいと思う。



掲示板

俳句・川柳・手芸・趣味等
募集しています。

年を取るっていい？

来年の桜も見れるかしら？

月日はめぐり、又私の一番好

きな桜の季節が来ました。

でも一緒に見たいあ・な・

た・はいない。

紅葉の季節が来ました。でも

あなたはいない。

若い日々の瑞々しい気持は少

しも変わってないけど、腰は痛

い、膝は痛い、し・わはできた。

でもあなたを想うこの心は昔

のまんまです。

もう一度いつしよに見たいナ

桜やもみじを!!

夢の中でも 雲の上でも

丸山 逸子(滝尾C班)

川柳

会員が

シルバーセンター

創り出す

原田博文(城南班)

駄々をこね

後期終期と

遣り返す

加藤明(中島B班)

胃カメラで

決して見えない

腹黒さ

渡辺 佳津子(鶴崎B班)

俳句

極楽の

再拝、合掌

花はちす

原田博文(城南班)

子や孫の

笑みを思わす

仏顔

※義兄の葬儀に接し

竹内 一光(別保B班)

短歌

緊張し 初仕事場へ

向かいおり 時間枠内

如何に為しかと

城井 俊子(明治G班)

ポエム

ままごと遊び

あぜ道小道で 野の花摘んで

ムシロをしいて おままごと

可愛い子どもの お母さん

「あがりんせえ」とお出迎え

板切れまな板 石包丁

お花の野菜を トントントン

竹にはさんだ 貝杓子

葉っぱのお皿に 花の寿司

小枝でつくった お箸を添えて

「まあ 食べちよくれ」と

おもてなし

本田 道子(松岡班)



シルバーだより

道 標

第 6 号

●発行／平成26年4月1日

●発行所／

公益社団法人大分市シルバー人材センター

〒870-0154 大分市高城西町32-16

TEL 097-552-3220(代表)

FAX 097-552-3796

ホームページのご案内

<http://oita.o-sjc.com/>

●会報編集委員

瀧本雄介・田村益子・本田道子
後藤幸敏・阿部治行

編集後記

大分の十大ニュースともなる、高崎山自然動物園の主人公、C郡のボス猿「ベンツ」である。生死不明のまま、亡きものと告知され、「お別れ会に」県内外から多くのファンがベンツを偲び訪れた。「ベンツ」の生涯をレポートにと、女性スタッフ二名は、雨が雪に変わり、寒風吹きすさぶ寒さともせず、取材を続けてきた。この「ベンツ」は、生涯語り愛され続けられることでしょう。少々彼が羨やましくも、今号表紙のフォト題材探しにと、人間社会の現実に戻る。又しても、先の女性パワーの撮った一枚の写真。心と癒された。コメントに「大野川河口の煙はく臨界工業地帯の対岸を走るなか、小さな砂浜で春の日差しを一杯に受けて遊ぶ母と子の微笑ましい姿に思わずシャッターを切った」とある。